

すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュ グループ

2019年4月24日

各位

2019年12月期第1四半期連結決算

- ・ 第1四半期業績として、売上・利益とも過去最高
- ・ 新製品の貢献と国内外における主力品の好調により、売上収益 1,543 億円 (+4.7%)
- ・ 増収と製商品原価率の改善に伴い、Core 営業利益は二桁増の 479 億円 (+11.9%)

中外製薬株式会社（本社：東京、代表取締役社長 CEO：小坂 達朗）は、本日 2019 年 12 月期第 1 四半期連結決算を発表いたしました。

2019 年 12 月期第 1 四半期の業績は、血友病 A 治療薬ヘムライブラ[®]、がん免疫チェックポイント阻害剤テセントリク[®]をはじめとする新製品や国内外における主力品の好調により、売上、収益ともに過去最高でした。前年同期に長期収載品譲渡に伴う一時的な収入を計上したことに伴いロイヤルティ等収入及びその他の営業収入が大きく減少したものの、新製品の貢献、輸出の好調等による製商品売上高の二桁増により、売上収益としては 5%弱増加しました。また、自社品の拡大を背景とする製品別売上構成比の変化により製商品原価率が改善したことを主因とし、営業利益は二桁の増加となりました。

(億円)	2019 年 第 1 四半期	2018 年 第 1 四半期	前年同期比
連結損益 (Core 実績)			
売上収益	1,543	1,474	+4.7%
製商品売上高	1,377	1,247	+10.4%
ロイヤルティ等収入及び その他の営業収入	166	227	△26.9%
営業利益	479	428	+11.9%
四半期利益	363	312	+16.3%
連結損益 (IFRS 実績)			
売上収益	1,543	1,474	+4.7%
営業利益	461	384	+20.1%
四半期利益	350	282	+24.1%

[売上収益]

- ・ 国内製商品売上高は、自社創製の血友病 A 治療薬ヘムライブラ、がん免疫チェックポイント阻害剤テセントリクをはじめとする新製品群および骨・関節領域を中心とする主力品の好調が、昨年の薬価改定影響や一部の製品における後発品影響を上回り、全体で 993 億円 (+6.9%) に増加しました。

- がん領域：昨年の薬価改定影響のほか、後発品影響によりリツキサン[®]の売上が大きく減少したものの、新製品テセントリクおよびガザイバ[®]の貢献に加え、パージータ[®]およびアレセンサ[®]の好調により、増収でした。
 - 骨・関節領域：関節リウマチ治療薬アクテムラ[®]、骨粗鬆症治療剤エディロール[®]を中心とする主力品の好調により、二桁の増収となりました。
 - 腎領域：腎性貧血治療薬ミルセラ[®]、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤オキサロール[®]がいずれも前年並みに留まり、全体としても横ばいでした。
 - その他領域：昨年の長期収載品譲渡の影響を受けたものの、新製品の血友病 A 治療薬ヘムライブラが順調に市場浸透したことにより、増収でした。
- ・ 海外製商品売上高は、アレセンサ、アクテムラのロシユ向け輸出の増加により、384 億円（+20.4%）に増加しました。
 - ・ ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入は、ヘムライブラに関するロイヤルティ及びプロフィットシェア収入が増加したものの、前年同期に長期収載品の譲渡に伴う一時的な収入を計上したことによるその他の営業収入の減少により、全体として 166 億円（△26.9%）に減少しました。

(億円)	2019 年 第 1 四半期	2018 年 第 1 四半期	前年同期比
製商品売上高	1,377	1,247	+10.4%
国内	993	929	+6.9%
がん領域	520	486	+7.0%
骨・関節領域	242	216	+12.0%
腎領域	79	80	△1.3%
その他領域	152	146	+4.1%
海外	384	319	+20.4%

[Core 営業利益]

- ・ ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入が大きく減少したものの、製商品売上高の増加および製品別売上構成比の変化による製商品原価率の改善により、Core 売上総利益は 906 億円（+8.0%）に増加しました。
- ・ Core 売上総利益の増加に対し、Core 経費（427 億円、+3.9%）の増加は一桁台前半にとどまりました。この結果、Core 営業収益は 479 億円（+11.9%）となりました。

Core 実績について

当社は IFRS 移行を機に 2013 年より Core 実績を開示しております。Core 実績とは IFRS 実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであり、ロシユが開示する Core 実績の概念とも整合しております。当社では Core 実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

上記本文中に記載された製品名は、法律により保護されています。

以上